

獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。

ピレモンへの手紙 10 節

I 罪から自由にされた喜び オネシモ

「獄中で生んだわが子オネシモ」(10 節)

とありますが、彼はコロサイに住む裕福な主人ピレモンに仕える奴隷でした。しかし、盗みを働いて逃亡します(18 節)。逃亡先のローマで捕まり、獄中でパウロと出会うことで主イエスを信じるのです。人はいっ主イエスと出会うか分かりません。しかし、主の救いはその人の心を変えます。オネシモは主イエスを信じ罪の悔い改めと赦しを体験した喜びから、逃げだしたピレモンの許へ戻りました。新生の喜びは人の心も行動も変える力があるのです。

II 人を赦し受け入れることができる喜び

ピレモン

オネシモの主人ピレモンがクリスチャンになったのもパウロの伝道によってでした(19 節)。主イエスを信じたピレモンがキリストの心を心として生きていたことはパウロが「あなたが主イエスに対して抱いて、すべての聖徒たちにも向けている、愛と信頼について聞いている」(5 節)ことからわかります。新生の恵みを得た者はさらに進んでキリストの御霊(聖霊)に心を明け渡すことで、キリストのように向き合う相手の人格を認め、受け入れる人へと変えられるのです。

III 神と人のために生きる喜び パウロ

言葉を尽くしてオネシモを執り成すパウロは、自分をキリスト・イエスの囚人だと語ります(1、9 節)。逆説的に聞こえますが、人としての真の自由は、キリスト・イエスにしっかりと捉えられることで得られます。

すなわち、キリストの心を心として自分の肉の思いを十字架につけてキリストの自由を得、聖霊に満たされている人は、祈りと感謝を通して創造主である父なる神と交わることで(4 節)、いつも生き生きとした喜びに満たされます。そして何より、人との出会いが主によって祝されるのです(21、24 節)。

【消息 報告】

■シオン・キリスト教会 創立 87 周年記念礼拝

日時 9月5日(日)

第1礼拝 9時より

第2礼拝 11時より

説教 荻野泰弘牧師

特別なプログラムはありません。コロ

ナ禍で自由に集まることもできません。

多くの方はお一人か少数人数でネット越し

に礼拝に加われるかと思えます。

だからこそ、創立者夫妻がおふたりで

蒲田駅に降り立って開拓伝道に臨まれた

ことに思いを馳せながら、私たちの教会

にとって大切なこの日に主への礼拝をさ

さげましょう。

コロナ禍にあって伝道活動にも制限を受ける中ですが、主が救いに導かれたことを感謝し御名を崇めます。どのような状況でも、失われた人を捜す主は救いの御業を現されることを改めて教えられました。主に期待して、関わる方やフォローアップ対象者のために祈りの手を挙げ続けましょう。

コロナ禍という苦難で魂の渇きを覚える方は世に多数いらつしゃるのではないでしょう。そのような方が主のもとに導かれるように、特に蒲田地域の人々の救いのためにも祈りましょう。

お近くで信仰について考えている方がいらつしゃれば、牧師が面談することができるとお伝えください(電話・ネット対応も可)。

■教勢報告

* 8月22日

第1礼拝 12名

第2礼拝 6名

小学科ホザナ礼拝

小0名 中1名 高1名